

定期作況報告

平成22年10月
(10月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年並で、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より少なかった（平年比40%）。日照時間は平年並であった（平年比97%）。

10月上旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに、平年よりやや高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比76%）。日照時間は平年並であった（平年比113%）

10月中旬：最高気温は平年並で、最低気温は平年より高く、平均気温は平年並であった。降水量は平年並であった（平年比83%）。日照時間は平年より少なかった（準正常値、平年比59%）。10月18日に当場で初霜を観測した。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は平年と比較して、気温は平年並、降水量はやや少なく、日照時間は平年並であった。

気 象 表

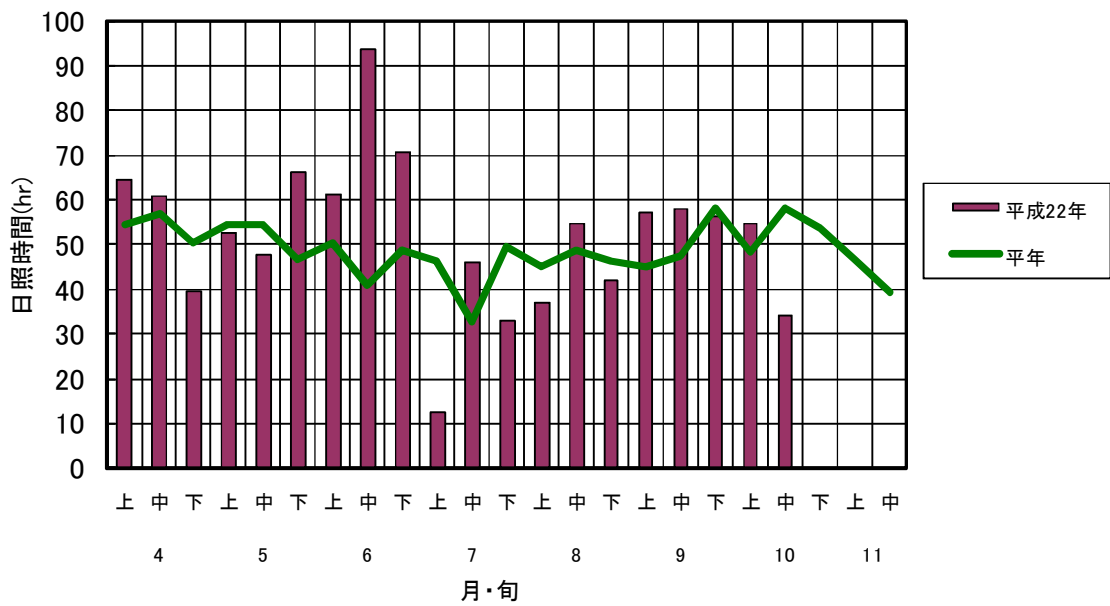
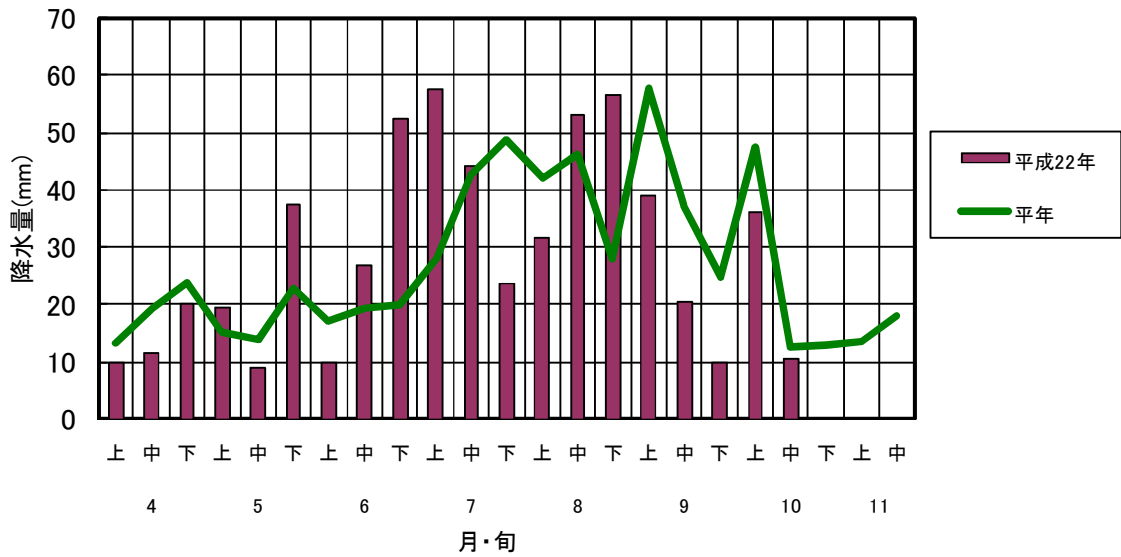
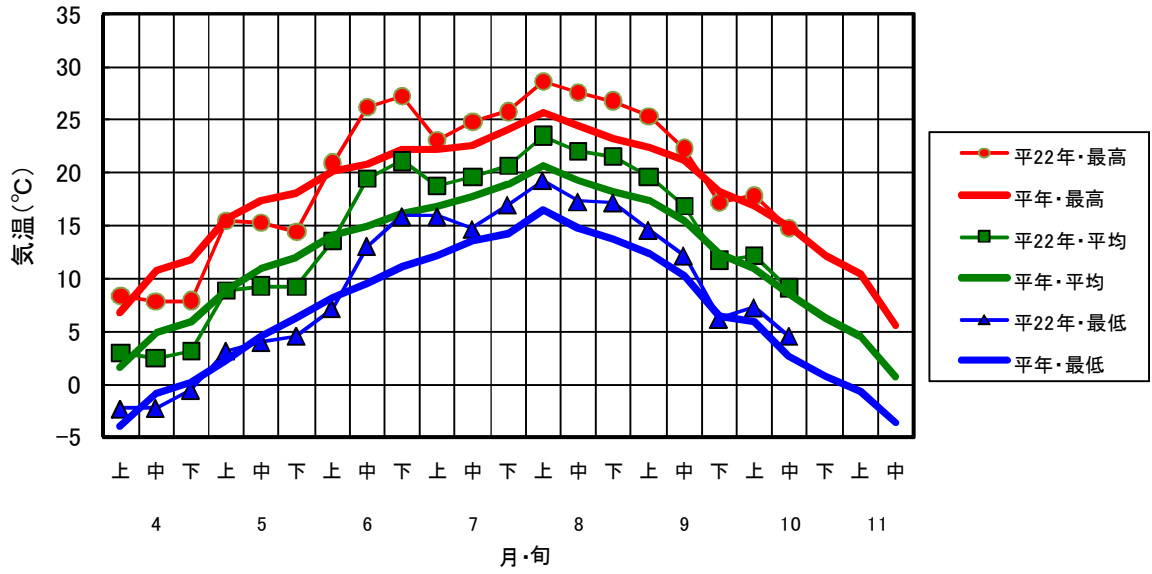
項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	11.7	12.3	△ 0.6	17.2	18.3	△ 1.1	6.2	6.5	△ 0.3
10月上旬	12.2	11.0	1.2	17.8	16.8	1.0	7.3	6.0	1.3
10月中旬	9.1	8.6	0.5	14.8	15.0	△ 0.2	4.6	2.7	1.9

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	10.0	24.7	△ 14.7	56.3	58.0	△ 1.7
10月上旬	36.0	47.6	△ 11.6	54.7	48.3	6.4
10月中旬	10.5	12.6	△ 2.1	34.0	58.1	△ 24.1

注 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。

3) 本年10月中旬の日照時間は準正常値（10月19日の観測値に十分な信頼性がない）である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用) 作 況 : 良

事 由 : 収穫期は平年と同じ9月22日であった。収穫時の稈長は平年より長く、収穫時の子実の熟度は黄熟中期と平年より登熟がやや進み、総体の乾物率は平年より高かった。乾物茎葉重、乾物雌穂重ともに平年より多く、乾物総重ならびに推定TDN収量は平年対比111%といずれも平年を上回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.22	9.22	0
収穫時の熟度	黄熟中期	黄熟初～中期	-
稈長(cm) (9月20日)	284	267	17
生総重(kg/10a)	6445	6619	△174
乾物茎葉重(kg/10a)	1011	936	75
乾物雌穂重(kg/10a)	1113	985	128
乾物総重(kg/10a)	2124	1921	203
同上平年比(%)	111	100	11
推定TDN収量(kg/10a)	1534	1382	152
同上平年比(%)	111	100	11
総体の乾物率(%)	33.0	29.2	3.8
乾雌穂重割合(%)	52.4	51.2	1.2
有効雌穂割合(%)	100.0	100.0	0.0

注) 平年値は前6か年の平均(供試品種を変更したため)。

2) 大豆

作 況：やや良

事 由：着莢数はほぼ平年並であったが、百粒重は平年を大きく上回った。子実重は、「トヨコマチ」が平年比 115%、「ユキホマレ」が同 103%であった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.21	9.26	△5	9.16	9.29	△13
着莢数(個/株) (成熟期)	65.0	62.7	2.3	66.3	68.2	△1.9
子実重(kg/10a)	401	349	52	386	373	13
同上平年比 (%)	115	100	15	103	100	3
百粒重 (g)	38.6	33.9	4.7	39.2	34.2	5.0
屑粒率 (%)	0.3	1.7	△1.4	0.0	1.7	△1.7

注1) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 小豆

作 況：平年並

事 由：着莢数は平年を大きく上回ったが、登熟期間が高温であったため、百粒重は平年を下回った。一莢内粒数は、「サホロショウズ」が平年をやや下回り、「エリモショウズ」は平年を下回った。その結果、子実重は、「サホロショウズ」が平年比 105%、「エリモショウズ」が同 99%であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.5	9.19	△14	9.10	10.1	△21
着莢数(個/株) (成熟期)	71.0	57.4	13.6	68.0	52.9	15.1
一莢内粒数	5.40	5.58	△0.18	5.91	6.58	△0.67
子実重(kg/10a)	417	398	19	434	438	△4
同上平年比 (%)	105	100	5	99	100	△1
百粒重 (g)	14.2	15.1	△0.9	12.9	15.0	△2.1
屑粒率 (%)	1.8	2.4	△0.6	1.2	3.0	△1.8

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

4) 菜豆 作況：平年並

事由：着莢数は、平年をやや上回ったが、百粒重と一莢内粒数は、「大正金時」はほぼ平年並であったが、「福勝」は平年を下回った。その結果、子実重は、「大正金時」が平年比 111%、「福勝」が同 92%であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
着莢数(個/株) (成熟期)	21.5	20.2	1.3	19.5	18.7	0.8
一莢内粒数	3.09	3.12	△0.03	2.91	3.12	△0.21
子実重(kg/10a)	373	337	36	352	382	△30
同上平年比(%)	111	100	11	92	100	△8
百粒重(g)	72.9	75.4	△2.5	84.9	91.5	△6.6
屑粒率(%)	2.2	6.0	△3.8	4.9	5.3	△0.4

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、21年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

5) ばれいしょ 作況：やや不良

事由：「コナフブキ」の枯凋期は、平年より7日早い9月27日であった。上いも重は平年並だったが、長期にわたり土壌が湿潤な状態であった影響を受け、でん粉価が平年より低かったため、でん粉重は平年を下回った。

以上のことから、前報の「男爵薯」と併せ、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	コナフブキ		
	本年	平年	比較
枯凋期 (月.日)	9.27	10.4	△7
上いも数(個/株)	9.7	9.9	△0.2
上いも平均重(g)	111	109	2
上いも重(kg/10a)	4769	4784	△15
同上平年比(%)	100	100	0
でん粉価(%)	20.5	21.8	△1.3
でん粉重(kg/10a)	930	995	△65
同上平年比(%)	93	100	△7

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

6) てんさい

作 況：不良

事 由：収穫は平年並の10月20日に行った。茎葉重は前報に引き続き平年をかなり下回ったため、根部の肥大は停滞し根重は平年を下回った。根中糖分は前報に引き続き平年より1%以上下回った。移植栽培の根重は2品種平均で平年対比95%、根中糖分は93%、糖量は88%、直播栽培の根重は平年対比92%、根中糖分は94%、糖量は87%であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (10月20日)	2,994	5,932	△2,938	3,517	6,030	△2,513	3,193	5,521	△2,328
根重 (kg/10a) (10月20日)	6,534	6,743	△209	6,672	7,124	△452	5,240	5,670	△430
根中糖分 (%) (10月20日)	16.45	17.77	△1.32	16.91	18.20	△1.29	16.74	17.76	△1.02
糖量 (kg/10a) (10月20日)	1,075	1,196	△121	1,129	1,307	△178	877	1,005	△128

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

7) 牧草(チモシー)

作況: やや不良

事由: 3番草の収穫は平年より3日遅い10月7日に行った。3番草の生育期間は気温が高く、降水量も多かったため、3番草は草丈が平年並であったが、乾物収量は平年対比114%と多かった。しかし、1～3番草の合計乾物収量は平年対比92%と平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	10.7	10.4	3
病害罹病程度	3番草	4.0	4.3	△0.3
草丈(cm)	3番草	47	47	0
生草収量(kg/10a)	3番草	609	536	73
	1～3番草合計	4222	3991	231
乾物率(%)	3番草	29.8	30.3	0.5
乾物収量(kg/10a)	3番草	181	159	22
	1～3番草合計	909	983	△74
同上平年比(%)	3番草	114	100	14
	1～3番草合計	92	100	△8

注1) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。